

令和6年8月15日

青森県議会議長 殿

青森県議会議員

夏堀 浩一		蛭沢 正勝	
花田 栄介		菊池 勲	
大崎 光明		工藤 悠平	
井本 貴之		工藤 貴弘	

議員派遣結果報告書

下記のとおり議員派遣を終了しましたので、その結果を報告します。

記

1 派遣目的

(1) オランダのスマート農業及び農業政策に関する調査

青森県基本計画「青森新時代」の架け橋においては、青森県の農林水産業を重要施策として位置づけており、農林水産業に関する本県の課題は、生産現場の慢性的な労働力不足や頻発する異常気象への対応、農作物病害虫の発生リスクが年々高まっていることです。現在青森県が取り組む DX 化による高い生産性の確保とイノベーションの創出の強化は一定の効果は期待できるものの、これら課題の完全な解決は困難です。そこで、世界第二位の農業輸出国であり、世界に先駆けて DX 化を進める世界最大規模の施設型農業の推進国、そして農業予算の二割を品種改良などの官民連携した研究開発へ投資するオランダの取り組みの調査が必要であると考えます。

特にウェストラント市で取り組んでいる 2400ha に及ぶガラス温室を中心にした施設園芸施策が、安定的な農業輸出額と効果を上げていることは、青森県むつ市の事例でも知ることが出来ると共に、世界的にも周知されています。また、世界園芸センターの取り組みについては、研究機関から品種開発までの取り組みで、世界的にも先進的な取り組みであることから、調査先として選定したものです。

今回の調査では、ウェストラント市の取り組みに関して、施設園芸農業に関する現状、対策、課題等を調査するとともに、世界園芸センターの状況、オランダ市民への教育や影響など、現地の専門家、研究者等から直接意見を聴取するものです。

調査した結果については、本県のスマート農業施策推進のために提言するなどして、農林水産業に関する青森県の課題解決に道筋をつけ、本県の農業施策の更なる推進をしようとするものです。



(2) フィンランドの持続可能な循環型経済都市に関する調査

青森県では、脱炭素社会の実現を重要課題として位置づけており、地球温暖化に対する本県の現状は、青森県の持つ豊富な資源をエネルギー源として活用し、経済的なメリットを獲得して地域の活性化につなげていくことを計画しています。青森県のすすめる再生可能エネルギーの活用施策は一定の効果が期待できるもの、カーボンニュートラルの達成のためには、より一層の政策推進が求められます。そこで、2021年に欧州グリーン首都賞を獲得したフィンランドのラハティ市の取り組み及び世界一の公立図書館として選ばれたヘルシンキ中央図書館を調査する必要があると考えています。

ラハティ市で取り組んでいる持続可能な循環型社会の実現するための施策が、2050年のカーボンニュートラルの達成への効果を上げていることは、世界的にも周知されています。また、ヘルシンキ中央図書館の取り組みについては、未来社会に向けた新テクノロジーの導入と学び、周囲や環境・エネルギーに配慮した建物、利便性、サステナビリティなどの観点での優れた点が世界的にも評価されていることを踏まえ調査をしてきます。合わせて、エネルギーや環境への高い意識を持つ国民性を育む取り組みの調査を行います。

調査した結果については、本県のカーボンニュートラル施策推進のために提言するなどして、持続可能な循環型社会の青森県モデルの実現に向けての取り組みを推進します。

2 派遣場所

(1) オランダ王国（南ホランド州ウェストラント市、北ホランド州アムステルダム市）

- ・在オランダ日本国大使館
 - ・農業・自然・食料安全保障省
 - ・ウェストラント市役所
 - ・南ホランド州政府
 - ・世界園芸センター
 - ・Tomato World 社
 - ・Koppert Cress 社
 - ・Syngenta 社
 - ・Dutch Greenhouse Delta 社
- } ウェストラント市内市場調査

(2) フィンランド共和国（ウーシマー県ヘルシンキ市、パイヤト＝ハメ県ラハティ市）

- ・ラハティ市役所
- ・ヘルシンキ中央図書館
- ・在フィンランド日本大使館

3 派遣期間（日程表添付）

令和6年7月9日（火）～令和6年7月16日（火）

4 派遣結果

別紙のとおり